

将来への意識を重視した進路指導 自分で考え、動くことが未来につながる

「人間形成と大学進学」を教育目標とする城北中学校・高等学校は、豊かな人間力とともに確かな学力を養い、毎年、難関大学に多数の合格者を輩出している男子進学校です。大学での学びや、社会へのつながりを重視する進路指導方針、今年度からスタートする順天堂大学との高大連携協定などについて、進学指導部長の高橋慶臣先生に伺いました。

受験勉強の先にある大学での学びや 社会へのつながりを考え始める

城北中学校・高等学校では、中高6年間を、中1・中2の「基礎期」、中3・高1の「錬成期」、高2・高3の「習熟期」という3期に分け、段階的の一貫教育プログラムを実践しています。教育目標の一つに「大学進学」がありますが、進学指導部長の高橋慶臣先生は、「大学進学がゴールではなく、将来的なビジョンを描き、大学入学後に何をやるかというところを、早い段階から考えさせています。大学受験では、単に有名大学への合格だけを目標にすると受験勉強が続きません。その大学で何を学びたいかを見つけ、学問のおもしろさに気づいた生徒は、粘り強く勉強し続けていきます」と話します。

将来や実社会のことを考え始め、視野を広げる時期となるのが、中3・高1の「錬成期」です。この時期に行われる「自分の将来を考える講演会」は、社会人であるOBのほか、在校生の保護者にも協力を仰ぎ、職業や進路選択について話してもらうイベントです。「身近な方々なので、自分が学



進学指導部長
高橋 慶臣先生

生時代に勉強してきてよかったという成功談だけでなく、勉強してこなかったこと、しておけばよかったことなどの失敗談も率直に話してくれます」と高橋先生。こうした体験談に生徒たちは刺激を受け、進路選択に向けた取り組み方を自分で考えるようになります。

中3では「職場訪問」も実施されます。訪問先は、出版・金融・製薬などさまざまな業界の企業のほか、法律事務所や中央官庁など、多岐にわたります。この時期に行われる講演会や職場訪問は、社会にどのような仕事があるのかを知り、「働く」ということのイメージを膨らませる、またとない機会となります。「先日、JALのパイロットの方の講演会があり、中高時代に学ぶ英語が実際に現場で使う英語とどうつながるか、というテーマでお話をしてくださいました。この講演会には約150名の生徒から応募がありました。今勉強していることと、仕事の現場で必要になる能力とのつながりを知りたいという、生徒たちの関心の高さを感じます」と高橋先生は強調しました。

卒業生から受け取るアドバイス 後輩のために思いが受け継がれていく

高2からは、卒業生を学校に招いて「入試懇談会」を行っています。講演形式ではなく、少人数の生徒が卒業生を囲む座談会風の催しなので、質問をしやすいのが特徴です。卒業生は後輩のために受験や大学生活のことなどについて、たくさんのアドバイスをしてくれます。また、大学入試の動向や結果分析、卒業生からのメッセージを集めた冊子「進学情報資料集」も毎年作成。「以前は中3以上の学年に配布していましたが、今は中1から配布しているので、生徒たちは早い段階から、先輩たちの勉強法などに触れることができます。「過去のものも読みたい」と進学センターに来る生徒も多くいます」とのこと。「卒業生たちが“後輩思い”なのは、自分がしてもらったからという思いもあり、それが在校生たちにも受け継がれていきます。卒業生の手記を読んだ在校生も、今度は自分が後輩のためにと、こちらが依頼する前から原稿を書いてくる生徒もいます」



OBを囲み、受験や大学生活についてのアドバイスをもらう「入試懇談会」



「職場訪問」では、訪問先企業の仕事を通じての他者貢献を知り、それぞれが将来について考えます



夜8時まで開放されている自習室。クラブ活動の後に利用する生徒も多くいます

夏期・冬期の休暇中の講習会も豊富です。生活リズムが乱れがちな長期休暇中も、午前中は講習会、午後はクラブ活動という基本的な生活リズム・学習習慣を維持しています。高橋先生は、「学年が上がると、ふだん学校がある期間でも“希望者を集めたので、こういう講習会を始業前や放課後に行ってもらえませんか”と提案してくる生徒もいます。自分たちで考え、動くことができるようになりますので」と生徒の成長ぶりを話してくれました。「自習室のほか、この進学センターでも生徒同士で励まし合い、教え合って日々勉強しています」。また、進学センターでは、大学などの教育・研究機関が中高生向けに行っているさまざまな講座・イベントを多数紹介しており、参加希望生徒もたくさん来るとのことです。

順天堂大学との高大連携協定を締結 さまざまな連携プログラムがスタート

未来への視野をさらに広げる取り組みとして今年度からスタートするのが、順天堂大学との高大連携プログラムです。教員間や、生徒と学生との交流が活発に行われます。医療現場が抱える課題やこれからの時代に求められる医師像などについての講義、医学生が実際に使用する医療機器の操作体験などが予定されています。同大学には、医療系に特化したデータサイエンス学部もあり、今後は薬学部も設置予定のため、多くの生徒がさまざまな視点で医療に興味を持つきっかけとなります。

「さびあ読者の小学生が、中学校を具体的にイメージで

きないのと同様に、中高生にとって大学は未知の世界です。高大連携プログラムをうまく活用して、いかに大学を知るかが大切になります。これをきっかけに『大学の講義はおもしろい』『もっといろいろな大学のいろいろな先生の話を知りたい』という新しい意欲を持つ生徒が増えてほしいと思っています」と高橋先生は期待を抱きます。

最後に先生は、受験生へメッセージを送りました。「本校は充実した学習環境が整い、自由で伸びやかな校風なので、やりたいことが十分にできる学校です。一人ひとりが活躍できる場、いろいろなタイプの生徒が自分の個性を生かせる土壌があります。学校生活が楽しく充実してこそ、学習にも積極的に取り組めるので、クラブ活動にも打ち込むように指導しています。一人ひとりに寄り添う進路指導は、卒業後に結実します。今日も7年前の卒業生が顔を出してくれました。立派になって戻ってきてくれることは、教師冥利に尽きます。卒業後もつながる関係、学年を超えた交流も本校の伝統であり魅力なので、また新しい出会いを楽しみにしています」



2022年9月、グラウンドが全面人工芝にリニューアル。学校生活を充実させるための、快適な環境が整います

学校のプロフィール

城北中学校・高等学校

- 所在地
〒174-8711
東京都板橋区東新町2-28-1
東武東上線「上板橋」駅より徒歩10分
東京メトロ有楽町線・副都心線、西武有楽町線「小竹向原」駅より徒歩20分
- TEL 03-3956-3157
- HP www.johoku.ac.jp

【各種行事日程のお知らせ】

※学校説明会などの情報は上記よりご確認ください。